



# 富岡製糸場総合研究センターだより

No. 16

(2022年6月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

にしおきまゆじよ

## 西置繭所の保存整備工事と壁面

中庭から西置繭所を見ると、向かって1階右側半分の壁面は木製のガラス建具と板壁で構成されています。

この場所は、建築当初には基礎に柱だけが建つ壁のない状態で、蒸気エンジンを動かす燃料の石炭置き場として使われました。その後、作業場として利用するために1897（明治30）年ごろに床を張り、壁を木製のガラス建具と板壁に改造しました。さらに1981（昭和56）年に他の壁面に似せる形で煉瓦壁に飾り窓を備えた姿に整備されました。

西置繭所は2020（令和2）年4月に6年におよぶ保存整備工事が完了しました。一般に、多くの歴史的建造物が修復の際に建築当初のオリジナルの姿に復原されるのに対し、西置繭所は1974（昭和49）年の姿へ復原されています。

西置繭所の保存整備工事を実施するにあたり「建築当初の姿を継承しながら最大の生産量に至った昭和49年の姿に復旧する」ことを基本方針としました。この根拠として「明治政府の産業近代化を象徴する旧富岡製糸場の主要建物として、概ね創業当初の姿を保ち、内部は主に繭の貯蔵おおむに関わる痕跡と最盛期の姿をよくとどめており、工場全体のシステムの変遷を知る上で価値が高い」と、保存整備工事の報告書に記されています。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

